

実践報告 (Report)

椋山女学園アフタースクール実践記録

——放課後に遊び心のある学び——

**Practical report of after-school program
on Sugiyama Elementary School : Integrate learning
with play**

日比野 安紗代*

HIBINO, Asayo*

松原 道晴**

MATSUBARA, Michiharu**

キーワード：放課後，学童，セミナー，プログラム

Key words : afterschool, schoolchild, seminar, program

摘 要

本稿は2013年(平成25)4月、新校舎完成に合わせ開校した「椋山女学園アフタースクール」の実践記録である。本校の保護者には「仕事などで留守の間、子どもを一人で留守番させておくのは心配」、「子どものやりたいことを色々やらせてあげたいが、仕事でお稽古事の送迎ができない」、「学校のお友だちと家が遠いので、帰宅後はなかなか遊べない」という悩みがあった。これらを保護者の小学校に対する要望と捉え、放課後に学校の友人たちと、安全で充実した新校舎内で一緒に遊び、学ぶ環境を整備した。アフタースクールの利用により、保護者は仕事帰りに来て、子どもと一緒に帰宅することが可能となった。保護者の迎えが難しい児童は、本校の教員や指導員が引率する16時、17時の一斉下校での帰宅の選択もできる。このように、アフタースクールは、児童に安全・安心な放課後の居場所を提供するため、そして保護者の就労支援のため運営している。

1. アフタースクールを設置した背景

少子化、景気低迷、私立小学校の相次ぐ開校により、椋山女学園大学附属小学校(以下、本校と呼ぶ)は、ここ2年間に顕著な志願者減少を体験した。そのため、新たな客層の拡大が必須の課題となり、共働き家庭の児童に対応した放課後の学童クラブの設置が検討された。近隣に位置する私立の南山小学校は、2008年開校当時からアフタースクールを開設しており、名古屋市も7年以上前からトワイライトスクールを段階的に全市立小学校へ広げてきている。2007年、国の「放課後子どもプラン」が開始され、文科省「放課後子ども教室推進事業」と厚労省「放課後児童健全育成事業」が連携をした。海外では、イギリスの放課後対策である「拡大学校(Extended School)」

* 椋山女学園大学附属小学校教諭

** 椋山女学園大学附属小学校教頭／教育学部非常勤講師「理科の指導法」

では、学校が学童保育とスポーツ、音楽などの様々な活動の機会を提供している。(子どもの放課後を考える―諸外国にみる学童保育問題(日本総研：池本美香) 勁草書房より)。

そこで、相山女学園アフタースクールの開校に向けて準備委員会を設置し、先行事例の運営方法を参考に計画を立案した。先行事例では、放課後の児童の安全・安心な活動を約束し、さらにはその子の個性を伸張することに運営の重点を置いていた。スポーツ、伝統文化、アート、語学等の充実した稽古事、さらに学習面の強化を行っている学校もあった。それらを踏まえ、相山女学園の伝統を生かしつつ、中京圏においては新進のアフタースクールを開校するように準備をしてきた。子どもたちには、3つの顔があるといわれている(図1)。「学校の顔」、「家庭の顔」そして「放課後の顔」である。近年、放課後の子どもたちの顔が稽古事や塾に限定されがちになっている。相山女学園アフタースクールでは、異年齢の子どもたちの縦のつながりも大切に、子どもたちの「放課後の顔」に多くの笑顔がみられるよう考えて、運営することにした。



図1. アフタースクールの理論的背景となる子どもたちの3つの顔

2. アフタースクールのコンセプト

60年の伝統を誇る相小の教育内容を、放課後にも拡大する。私立学校として、近隣の公立小学校トワイライトスクールや、民間学童保育所とは一線を画した上質で充実したプログラムを提供する。授業では扱い切れない学びを、そのことに興味を持つ子どもに掘り下げて教える場に行ける。その結果、相小の教育そのものへの注目度も高めることができると考えている。アフタースクールの基本となるコンセプトは次の

(1)～(5)である。そして3つの柱は図2に示した。

- (1)教育理念「人間になろう」の実践（人間力向上、生きる力を育むための体験的学習の場）
- (2)放課後の安全・安心な子どもの居場所作り（学校内で安全に友だちと遊び学ぶ、学区がない私立小の子どもの放課後のコミュニティ作り）
- (3)総合学園ならではの一贯教育を活かした取り組み（小1～6年だけでなく、中・高・大も含めた縦の交流、総合学園の人財・施設などのリソースを活用）
- (4)社会で活躍する女性の就労支援（安心して子どもを預けられ、良質で多彩な体験を与えられる場）
- (5)キャリア教育の実践（社会には色々な仕事がある、日本の技術力の高さを知る）

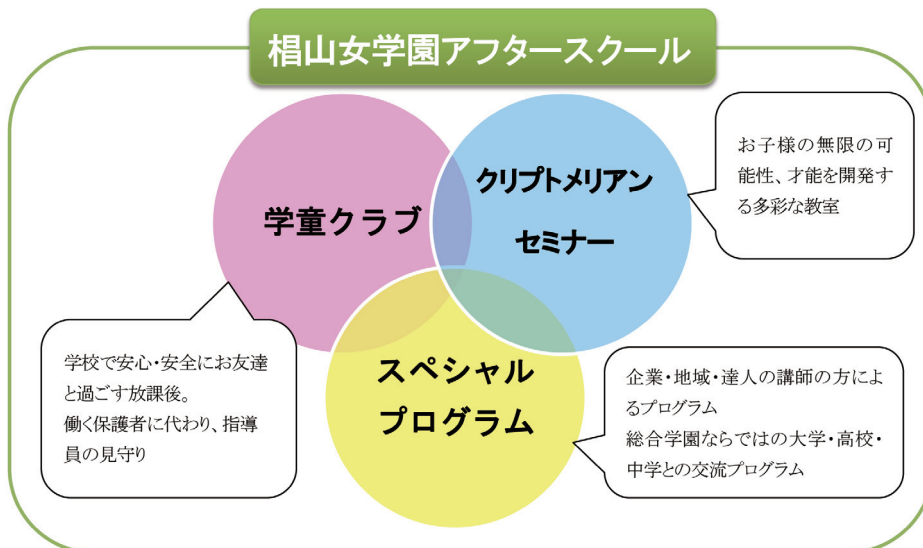


図2. 梶山女学園小学校アフタースクールの3つの柱

3. アフタースクールのプログラム

3-1. クリプトメリアンセミナー

教養、趣味の幅を広げ、好きな事を見つけるために伝統、アート、スポーツ、学習・サイエンス、コミュニケーションに分類した多彩な講座を学校内で受講できる（表1）。2012年度に、保護者の就労状況や子どもたちの放課後の過ごし方、アフタースクールに関するアンケートを実施し、ニーズの高い講座を取り揃えた。現在179名の会員登録がある。2014年度は、要望の高かった書道、ダンスが追加開講される予定である。

表 1. 2013 年度に開講されたクリプトメリアンセミナー（椋山女学園大学附属小学校 web site に掲載）

2013年度 開講プログラム（第1セミナー15:00～15:50／第2セミナー16:00～16:50）

ジャンル	月	火	水	木	金
伝統	三味線	日本舞踊			和太鼓
アート			造形実験	フラダンス	折り紙
スポーツ		サッカー	フィットネス		
学習・サイエンス	学習講座 デジタルクリエーション	パソコン		学習講座 サイエンス	
コミュニケーション	英語		フランス語		

3-2. 学童クラブ（放課後児童健全育成）

保護者が就労している児童を学校内で安全に預かり、お迎えまでの間、家庭に代わる居場所を提供する。平日の授業後～18 時（延長 18 時半まで）、長期休暇は 8 時～18 時（お盆休み、年末年始、土日以外は毎日開設）である。現在 30 名の児童が利用。運営が安定するまでの数年は椋小在校生に限定し将来的には定員に空きがある場合、椋山女学園の専任職員の女兒の受け入れや名古屋大学ポピンズアフタースクールとのステーション提携も検討している。

3-3. スペシャルプログラム（長期休暇を中心に実施）

(1)企業プログラム

企業の CSR（社会責任）担当部署に、企業の特性や人材を活かした出前授業を依頼した。子どもたちに色々な仕事を体験的に紹介し、国の政策でもある初等教育でのキャリア教育の一端を担う。また、日本の企業が持つ最先端の技術などをわかりやすく紹介し、日本の技術力の高さに自信を持たせる。今年度は、星ヶ丘ボウル見学ツアー、松坂屋 1 日職業体験を実施した。



星ヶ丘ボウル見学ツアー



松坂屋での職業体験

(2)一貫教育プログラム

放課後に小学校 1～6 年生だけでなく、中・高・大の縦の交流、長期休暇を利用して中・高・大の有志クラブとの交流をする。そのクラブやスポーツ等の魅力、椋中・椋高生の人間的魅力をアピール。低学年から併設校への親しみや憧れ感を醸成し、進

学率を上げる効果も期待できる。また、子ども向けのプログラムを提供できる有志教職員に協力を依頼した。今年度は、中学ダンス部、高校調理部、中学・高校茶道部、高校バレー部、中学・高校水泳部、大学教育学部の野崎健太郎准教授、石橋尚子教授、小杉裕子准教授、人間関係学部に加藤主税教授、高校・大学の学生ボランティアのご協力の元、学童の子どもたちとの交流を実施した。



中学ダンス部



中高茶道部



石橋教授（教育学部）による「名前であそぼう」



小杉准教授（教育学部）による「ボディーパーカッション」



野崎准教授（教育学部）による「ビオトープ探検」, 「どんぐりゴマ・やじろべい作り」



加藤主教授（人間関係学部）とゼミ生による「マジックショー」



学生ボランティアによる「ハロウィンパーティー」, 「クリスマス会」

(3)地域交流プログラム

学校周辺の歴史的建物や、商店街を活用した学習や近隣の市民先生による授業。千種区内の大学・学校や学童保育所の児童との交流を行う。今年度は、覚王山商店街でのおつかいを実施した。



「覚王山商店街へのおつかいと見学」

(4)達人プログラム

一流の技を持つ、その道のプロを講師に招き、指導を受けながら子どもが体験学習する。今年度は、シェ・シバタの柴田武シェフによるケーキのデモンストレーション、クッキングの講師の方によるランチ作り、スナッグゴルフの体験、造形実験の先生を招いたアート作品作り、折紙教室の先生を招いた折紙アート、大須スケート場でのスケート体験を実施した。



シェ・シバタ



クッキング講師によるランチ作り



スナッグゴルフ



大須スケート場



クリプトメリアンセミナーの講師
による造形実験



クリプトメリアンセミナーの講師によ
る「折紙教室」

その他にも、109 シネマズでの映画鑑賞，名古屋港水族館，名古屋市科学館，モリコロパーク，学童の子どもたちによるカレーやお好み焼きなどのランチ作りを実施した。



名古屋港水族館



学童の子どもたちのクッキング「ピ
ザ」，「カレーライス」作り

4. 関係部署との連携による支援体制の確立（オール椋山プロジェクト）

- (1)広報課（広報課との連携による効果的な発表・広報，アフタースクールホームページ作成）
- (2)財務管財課（新校舎建築工事とアフタースクール開校準備との調整，リフォーム工事，下校時刻の延長や保護者のお迎え出入りとセキュリティ）
- (3)財務経理課（準備年度予算措置，開校後の独立採算型会計処理方法の相談）
- (4)総務課（アフタースクールアンケート実施，集約，分析に関するアドバイス）
- (5)学生課・教育学部事務室（ボランティア又はアルバイトの学生支援スタッフ募集）
- (6)キャリアサポート課（CSR 担当部署がある企業の紹介）

5. アンケート結果の分析

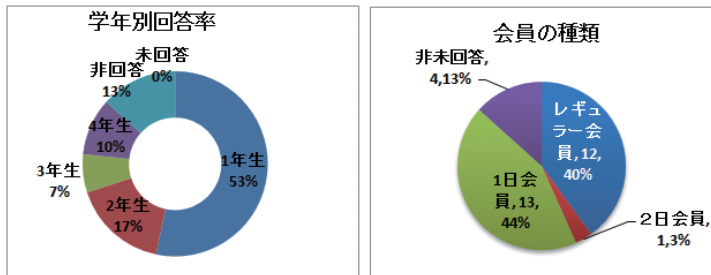
平成 25 年 8 月末に学童クラブ利用児童対象の保護者向けアンケートを実施した。集計結果については最後に資料として添付した。アンケート結果を分析する中で気づ

いたことを次の6項目に記述した。

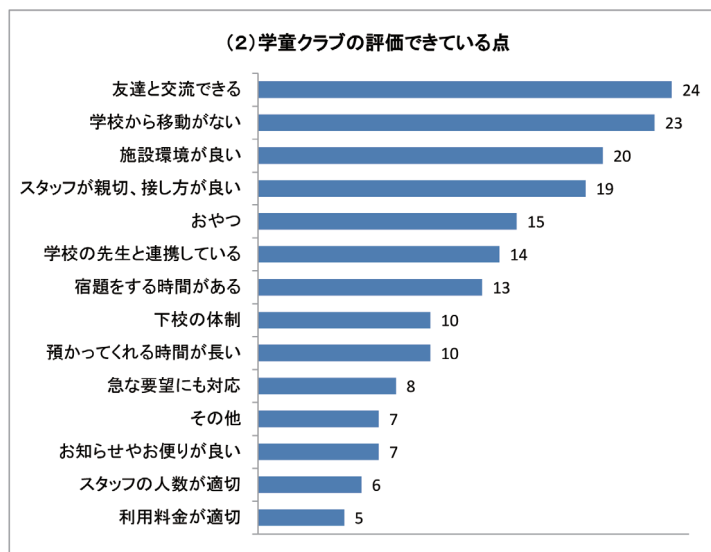
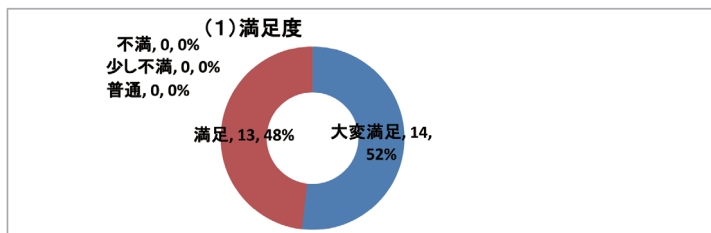
- ①1年生が過半数を占めており、低学年の活動（学習・生活）に対する支援が学童クラブの大きなウエイトであることが理解できる。他の学童でも低学年が大きな比率になるのは同様であり、今後も、このような比率が継続していく見通しである。
- ②放課後の過ごし方は、自宅8、祖父母の家6、家以外で過ごす児童が26であり、保護者が自宅を留守にしていると予想される割合が80%である。自宅・祖父母の家以外で過ごす割合も65%である。そこで、アフタースクール以外のお稽古や塾でなく、クリプトメリアンセミナーに参加してもらえるように、子どもたちに魅力のあるセミナーの講座を開催していく努力が必要になる。現在、習字とダンスのセミナーを開講できるように進めている。
- ③学童クラブの満足度は非常に高い評価を得ている。運営支援を受けている「放課後NPO アフタースクール」の平岩さんは「放課後には、仲間、時間、空間の3つの間、三間が大切」だと提唱している。保護者の評価上位3点は、「友達と交流できる」―仲間、「学校から移動がない」―時間、「施設環境が良い」―空間であり、椋山の学童クラブが「三間」を確保できていることを示す内容になっている。スタッフの接し方なども次に評価されている。夏休みに入っのスタッフの増員もでき、大学生・高校生のボランティアに大きく助けられたことで、スタッフに余裕ができた働き方になった。現時点で保護者の学童クラブへの高い評価はスタッフとボランティアのおかげといえる。
- ④運営支援を受けている「放課後NPO アフタースクール」の平岩さんは、保護者に対して、「学習面など、学童クラブにおまかせでなく、保護者の方が声掛けなどしていただくことが必要。学校と家庭と学童クラブとで子どもを共に育てていくという意識を持ってください」と話した。実際、協力的な保護者が多い。
- ⑤学童があることで親子共に「学校への評価」が上がり、アフタースクールの存在が椋山小学校の評価につながっていることがうかがわれる。また、児童は異学年との密な交流もあり、仲間を意識して行動する中で精神的な成長が見られる。保護者は仕事に安心して取り組み、家庭での子供との時間に余裕ができています。
- ⑥長期休暇（夏休み）の学童のプログラムへの評価が非常に高く、児童は、家族と過ごす期間、学童の仲間と過ごす期間、両方共に充実して過ごすことができたようである。この夏休みの学童のプログラムは、アフタースクールの一番初めの企画案にあったスペシャルプログラムに通じている。企業プログラム、地域プログラム、達人プログラム、総合学園ならではのプログラム。夏休みに、はからずもこの4つをすべて行う形になった。説明会などの様子から判断するとスペシャルプログラムに対する関心は、保護者も児童も共に高い。普段できない経験、初めての取り組みなどで興味・関心を広げることができるためである。今後は、このプログラムにも力を注いでいく。

学童クラブアンケート集計結果(H25.8月)

アンケート回収時の学童クラブ員28名(H25. 9.1から2名増につき現在30名)
アンケート回答者数28名(100%)



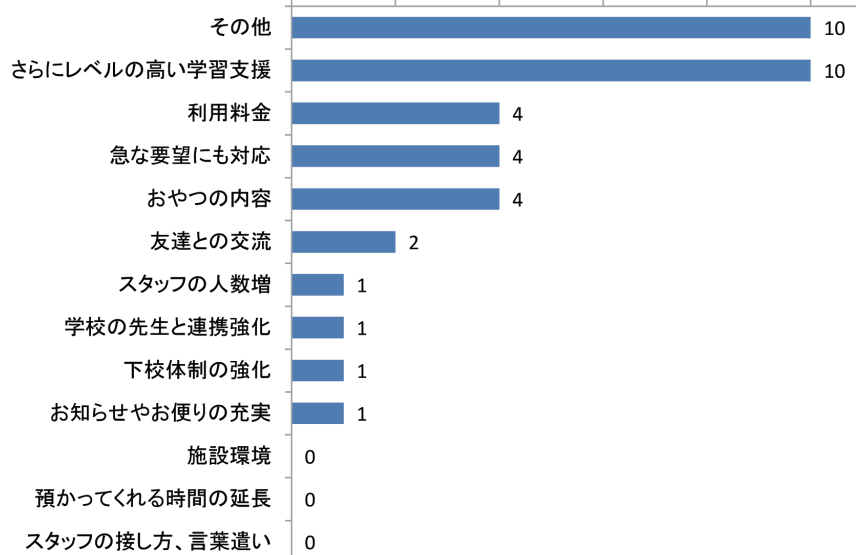
【椋山女学園アフタースクールの学童クラブについて】



その他詳細

- 中高のお姉さんとの交流から中学生になったらこの部活に入りたいな・・・と楽しみが増えたようです。
- 課外学習ができたことがよい。
- 全て満足しています。
- いろいろな企画が本当に素晴らしかった。娘も大喜びでした。
- 家庭的な雰囲気。
- 夏休み企画は貴重な体験も多く、すばらしかったです。掲示されている写真も子供たちの様子がよくわかり、すきです。

(3)改善を望む点



その他詳細

- 19:00までの開設。おやつは、フルーツやヨーグルトのみでは帰宅までにおなかがすく。学童での様子のタイムリーな情報発信。情報量。
- 学習支援についてレベルの高いことより普通のおけいこを増やしてほしい。そろばん、ピアノ、習字など一般的なことを校内でもらえばより時間の有効活用ができると思います。おやつは質と量を増やしてほしい。夕食が遅くなりお腹がもたないようです。
- スポット利用(1日単位での)が前日までの連絡でできると助かります。
- 学習時間は遊んでいる子がいないように厳しくしてもよいかと思います。
- 帰宅時間が遅くなるのでお腹にもつ物をおやつにいただけたらいいと思います。
- 宿題勉強をよりしっかり指導していただけたらありがたい。子ども自身は遊びをすぐしたがるようです。
- 今回の夏休み中、宿題への取り組みをもう少し積極的にうながしていただきたかったです。
- 宿題、自主学習をする環境設定(自由遊びをしている生徒とのグループ分けなどを行い、学習に適した静寂の確保)や学習について質問をしたりアドバイスをもらえる体制を希望。
- 夏休み中も毎日楽しくいくことができました。ありがとうございました。
- 宿題をきちんとやらせたいので学校の先生と連携して宿題をただ単に消化するのではなく、理解度を深めることができる機会につなげていただけたらありがたいです。